



1「夢の教室」の最後に鶴岡先生と記念撮影。「自分の夢を見つけない、叶えたい」という思いで、児童たちの瞳はキラキラと輝いていました。2_鶴岡先生とのゲームを楽しむ児童たち 3_「自分の夢」と「夢を叶えるために努力すること」を発表する佐藤謙くん 4_ゲームをクリアするために、みんなで知恵を出し合い協力

夢の教室



夢先生

「夢を持つこと」の素晴らしさを伝えたい

11月29日、子どもの健全育成を目指す公益財団法人日本サッカー協会の「JFAこころのプロジェクト・夢の教室」が、深谷小学校的の4・5・6年生33人を対象に開催されました。「夢先生」として同小を訪れたのは、元スノーボード日本代表の鶴岡剣太郎さん。体を使ったゲームや自身の体験談を通して、「夢を持つこと」「仲間と協力すること」の大切さなどを、児童たちに投げ掛けてくれました。

前半は、体育館で体を動かしながら学ぶ「ゲームの時間」。1畳ほどの体操マット4枚に児童全員が上がり、マットから落ちないように移動するゲームや、全員が手をつないで「だるまさんが転んだ」をするゲームなど、ただ体を動かすだけではなく、与えられたルールの下、どうすればクリアできるかを考えるゲームが行われました。

最初は失敗ばかりで全く前に進めなかった児童たちも、鶴岡先生と作戦会議を行い、「あせらずやろう」「力のある人がマットを持つ」というなど、知恵を出し合い協力。ゲームを通して児童たちは、目標を達成するために人の話やルールをよく聞いて考えること、仲間と協力することの大切さなどを学びました。

後半は、教室に場所を移し夢について話をする「トークの時間」。「辞

※本市での「夢の教室」は、子どもたちの生涯学習の支援を目的に、財団法人上廣倫理財団が経費を負担して実現したものです。

私 は、小学5年生の時に「スキー選手になってオリンピックに出たい」という夢を持ちました。今でこそ、こうして人前で話をする事ができますが、子どものころはどちらかというと引つ込み思考でした。それでも中学生の時に、勇気を振り絞ってその夢を両親に話し、山形県の羽黒高校に進学する許しを得て、夢への第一歩を踏み始めました。ただ、周りの生徒たちは小さいころからスキーをしてきた人ばかり。スキー場のない所で育った私は、高校3年間、全国大会に出ることもできませんでした。仙台大学に進学し、21歳の時に初めて全国大会に出場することができましたが、結果は後ろから数えた方が早い順位でした。この時、私は悔しいという気持ちよりも、スキーを続けていくことが無理と感じました。一度そう思うってしまうと、スキー自体がおもしろくないと感じてしまったのです。そんな時に出会ったのがスノーボードでした。しかし、スノーボードが楽

しいと思っていくと同時に、たった1回の挑戦でスキーをあきらめたことへの後悔の念がわき出てくるのでした。そして、「もうあの時のように後悔したくない。今度こそ、スノーボードでオリンピックに出たい」と強く思ったのです。

(アメリカ)出場へ強い思いを持っていました。落選。目標を失い、約2カ月間、途方に暮れていました。そんな私を救ってくれたのは、「オリンピックに出られなかったことは残念だけど、一緒に目指したことが楽しかった。ありがとう」という父の言葉でした。いつの間にか、自分の夢がみんなの夢になっていたと気付かされたのです。

成功はチャレンジから！
最後まであきらめずに、夢に向かって本気で続けてほしい



鶴岡 剣太郎 さん
Tsuruoka Kentaro

つるおかけんたろう 1974年千葉県生まれ。3歳でスキーを始め、スキー選手を目指して山形県の羽黒高校に進学。仙台大学進学後、21歳でスノーボードに転向。1999年、全日本スキー選手権大会スノーボード競技で優勝。全日本メンバーに選出されワールドカップなど海外を転戦。2001年、スノーボード世界選手権に出場。以降、全日本選手権で3度優勝。スノーボードアジア選手権では銅メダルを獲得。2006年には、アジア勢初となるトリノオリンピック出場を果たすなど日本だけではなくアジアスノーボード界をけん引。2009年選手活動を休止。現在は、後進の育成やスノーボードの普及・発展に力を注いでいる。

私がみんなに伝えたいこと。それは、「成功はチャレンジから」「本気で続ければ本モノになる」「それでもあきらめない」という3つの言葉です。私は何度も失敗を経験しました。そのたびにすべてを投げ出したという気持ちになりました。それでも、失敗を糧にして前に踏み出すことができました。「オリンピックに出たい」という一つの夢を、20年かかりましたが叶えることができました。